

## やじうまウォーキング（その二）

大森 海太

今年は年明け早々、能登半島地震に日航機衝突事故と大惨事が続いたが、都内では西新宿のマンションの火事がテレビでたびたび放映され、あの辺りなら心当たりがあると、よせばいいのに翌日見物に行った。地下鉄大江戸線の新宿西口から青梅街道を西に十五分ほど、テレビで見たのと同じ、一部焼け焦げたマンションがあった。

それから二、三日後、今度は目白台の旧田中角栄の屋敷が丸焼けになったとのニュース。あそこならウチから歩いて行ける、是非見に行かなくっちゃということで、またまたやじうまウォーキング出勤。

神田川に添って江戸川公園を進むと早咲きの白梅が開きかけている。歩くこと一時間弱、坂を上って目白通りに出るとなにやら焦げ臭いにおいが漂っている。

田中邸の前には警察や消防署の車両が並び、通りの向こう側にはテレビカメラが砲列を敷いて物々しい雰囲気だ。玄関前には消防署員が構えていて中は覗けない。あたりではハンドカメラをかついだお兄さんとマイクを持ったお姉さんが、インタビューする相手を探している。つかまったら大変と体を縮めて横の路地に入ると、大きな二階家の黒焦げの梁と柱だけになっているのが塀越しに見えた。

火事の原因は娘の真紀子さんのお線香だったとか。真紀子さんはずっと以前、茗荷谷のスーパーでなんか見かけたが、颯爽とした雰囲気はテレビで見るのと同じ。そういえばここには近所の川口アパートの三益愛子さんも時々来られていて、店員に魚のおろしかたを指示するその口調が実にシッカリしていたことを覚えている。

さて田中角栄逝つてはや三十年、かつて目白御殿といわれ栄耀を誇ったその大邸宅はすべて灰燼に帰した。角さんに対する毀誉褒貶はさておいて、あのような存在プレゼンス感をもった人はもういない。今の先生たちは小粒になった。裏金がどうのこうのと騒がれているがセコい話だ。

昔のように鷹揚に構えて清濁併せ呑むスケールの大きな政治家を望みたいと思うのだが、古いかな？